株式会社秀和システム様向け

仕様書の基本と仕組みシステム

詳細設計書  
顧客データ制御処理

第1.0版

|  |  |
| --- | --- |
| 版数 | 1.0 |
| 承認者 | ムーンマイル・ソリューションズ　増田智明 |
| 作成者 | ムーンマイル・ソリューションズ　増田智明 |

改版履歴

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 版数 | 改版概要 | 改版日 | 改版者 |
| 1.0 | 新規作成 |  | 増田智明 |

目次

[1. はじめに 1](#_Toc331677398)

[2. 概要 2](#_Toc331677399)

[3. 内部設計 3](#_Toc331677400)

[1.1. 顧客データ画面処理 3](#_Toc331677401)

[1.1.1. 顧客データ入力処理 3](#_Toc331677402)

[1.1.2. 顧客データ更新処理 3](#_Toc331677403)

[1.1.3. 顧客データ検索処理 3](#_Toc331677404)

[1.1.4. 顧客データ削除処理 3](#_Toc331677405)

# はじめに

詳細設計書のまえがきを書く。

先行する概要設計書や、参照する詳細設計書を列記する。

# 概要

本詳細設計書の概要を記述する。

# 詳細設計

概要設計に従い、各処理の詳細動作を細かく記述する。

コーディングを外注する場合は、処理単位にクラスや関数名などを明確にするとよい。

## 顧客データ制限処理

### 永続化データ処理

### 一時顧客データ処理

### 期限切れの顧客データ処理

概要設計書の指示に基づき詳細設計を進める際、最近の傾向として詳細設計や内部設計の省略が見られます。特に、自分でコードを書く場合には、詳細設計を省略し、重要な設計決定や理由をコード内のコメントとして記録することが有効です。これにより、設計の意図や特定の実装選択の背景が後からでも理解しやすくなります。また、将来的なメンテナンスや機能更新の際にも、これらのコメントが有用な情報源となり得ます。ただし、プロジェクトの規模やチーム構成によっては、詳細設計をしっかりと文書化することが重要な場合もあります。適切なアプローチはプロジェクトの特性やチームのニーズに応じて選択することが重要です。